

---

**Life+is+beautiful**

ウラレ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

L i f e + i s + b e a u t i f u l

### 【Nコード】

N 3 5 6 9 S

### 【作者名】

ウラレ

### 【あらすじ】

散文や 歌詞や詞や詩や 散文や

## ユキピタスオレンジ

ガムを噛んで吐き出してる

噛んで吐き出してる

噛んで

吐き出してる

驚く速さで僕らは情熱を失くしていく

シールドに守られた悲痛な世界の叫び

シーラカンスが呟く不平不満を

そっとビーカーに入れて売り歩くのが今の僕の仕事さ。

ジャムバンドの演奏を

黙ってみているよ

黙って

みているよ

驚く速さで僕らは希望を失くしていく

街を練り歩く人々の白々しい靴々

僕と君はそれを見て紅茶を飲むだけで

少しだけ卑屈な気分になれるのが今の現状なのさ。

Ubiquitous orange

ふわふわと歩くだけでぶつかるそれ

鬱屈した僕らは今にも自殺の計画を立てて

それを実行してしまうだろうよ。

しかし僕がそれを話しても

君はキーホルダーを弄くるだけだ。

Ubiquitous orange

閉塞的な街の夜景

美しいなんて思える人間はみんな美形で

不幸せなんか持っていないだろうよ。

しかし僕がそれを話しても

君はコーヒーを啜るだけだ。

さよなら、ユキビタスオレンジ

僕らは少数派になって生きることを望んでいる  
君らの存在は邪魔なのさ

一夜で作ったゴミの山を渡すから

高野山にでも帰ってくれ

さよなら、ユキビタスオレンジ

僕らは今、居なくても良い存在を

プチプチのように潰すことを望んでいる

一夜で作ったゴミの山も笑うな

遍在する馬鹿どもの叫びを

## ユキピタスオレンジ（後書き）

ところでシーラカンスは不平不満を語るのでしょうか。

## 怒鳴り声のための協奏曲

お世話になった人へ手紙を送ろう  
物悲しい、世界の終わりみたいな手紙を  
きつと喜ぶか悲しむかするだろう  
好きの反対は無関心だよ

怒鳴る人へ物語を贈ろう  
おぞましい、狂気に満ちた物語を  
一番悲しい結末は弦で手首を搔っ切ること  
好きの反対は無関心だよ

饒舌な人へ名曲をあげよう  
死にたくなる、鬱屈に満ちた名曲を  
きつと色んな恐ろしい逸話があるんだ  
好きの反対は無関心だよ

大事な人へ絵画を捧げよう  
恐怖を感じる、不気味な絵画を  
きつとすぐに捨ててしまうだろうね  
好きの反対は無関心だよ

お世話になった部屋へ手紙を送ろう  
散々恨みを綴った、怒りに満ちた手紙を  
きつとすぐにまた人が住むんだろう  
好きの反対は

## 怒鳴り声のための協奏曲（後書き）

名曲のモチーフは暗い日曜日。

音楽聞いて寝れなくなったのは前にも後にもあれだけ。

## どこにも行けずに

「私たち、本当はどこにも行けないんだわ。

歩いたり笑ったり悲しんだり悲しんだりしてるけど、

本当はこれは夢で、起きたらすぐに

談話室と病室を往復する日々を繰り返すんだわ。

そしてついに気が狂って、

私なんかすぐに精神病院に入れられてしまうわ。

そこで私はいつも白い壁を叩いて、

今は居ない誰かを呼んでいるんだわ。

これが夢なら覚めないうちに、

天国や地獄や宇宙の彼方へ飛んで行きたい。

そこが死ぬほど辛い世界でも、

ここや病院なんかよりよっぽど幸せで虚しいわ。」



**どこにも行けずに(後書き)**

高額買取中の「よっぽど」。

## ファイナル・アクト

覚えてる？ 夢に漂った日のことを

ノイジーなギターに乗って、精神世界を旅したことを

神様に救いを乞おうとして、レモンティーを零したこともあったよね  
あなたは日記を書くのが好きで、いつもそれを日記帳にしたためてた  
ねえどうかそれが冗談なら言うのやめて、私の言うことに従って  
もしそれを本気でやろうとしているのなら、私は真空の中に消滅するから

だから私が消えた後、思う存分ゆらゆらしているデブリを可愛がってね

” Thanks to the world!! ”

## ファイナル・アクト（後書き）

わりまし。

## アンプのための狂騒曲

地獄行きの飛行機が離陸する、その夜に  
僕は部屋でギターをアンプに繋いでいた  
悲しみはしないよ、だって最後の踊り  
とっても嬉しそうだったもんね！

もしそれが僕と踊れたからだって冗談を受けても  
全ては、もう、ないから  
気狂いみたいなことはしないさ

ギンギン弾いてもくたばらない弦を  
最大限に愛するための早弾き講座  
ビニール袋に入った愛の塊を  
僕らは一番欲してたのかもしれない  
ラスト・ダンスの余韻は夜の港に消えていく  
全ては、もう、ないから  
自暴自棄にだってならないさ

全ては、もう、ないから  
悟ったみたいに僕は冷静さ  
怖くなるぐらいに  
恐ろしくなるぐらいに

## アンプのための狂騒曲（後書き）

ラストダンサー。

あ、因みに1〜10ぐらいまでは繋がりがります。

しかし200文字の制限は辛い。

少ない言葉でだって語れることがあるだろうに。

## **D o y o u t h i n k a d r e a m ?**

言葉少なげに私は絶望を語る

夜のとぼりに花は散る

形の無いもの、それが全て

やっと希望に慣れた彼を視る

どういう関係であろうが彼は猫が好き  
じやれる猫が大好き

閉塞的な日常を捨てた彼は

無くしたものに対して夢を見る

夜のとぼりに花と散る

悲しみ、思い、その全て

もし私が思いを吐き出せたら

怖いと絶叫してしまうだろう

幸せではない、それ全て

どこかへ連れていく死神のセレナーデ

今までのことが全部夢だと知るまで

彼はいつまでも迷走を続けるんだろう

私は、それが、一番夢みたいに

悲しい。

**Do you think a dream? (後書き)**

何も考えずに書いていくと、僕の場合必ず

「夢のように」とか「セレナーデ」とか出てきます。

ティー・フレーズによい言葉を。

## 8mmフィルムを持って

無くしたものを形に撮るのはとても大変なことだから  
木の下にいつも立ってるおぼろげな人物を夢に見る  
クレイアニメを思う存分心ゆくまで鑑賞する  
その夜悲しみに満ちた狂気の悪夢でうなされる

あれからカメラを持つのがとても難しくなった  
8mmフィルムを持ってどこかへ行くのが悲しくなった  
言葉にしたら途端に陳腐になる思いの意味  
それはいつも悲しい笑顔してナイフで僕を襲ってくる

無関心を想った

それは思ったより難しいことみたいだ  
死ぬとは終わり、終わりは終わり  
終わりを歌に乗せて奏でてもいいのか

いつもギターを持ってベースを持って8mmフィルムを持って  
それはさながら蛹のように崩壊するのを待ってる  
僕を二分化させるベルリンの壁とライナーノーツ

あれからカメラを持つのがとても難しくなった  
8mmフィルムを持ってどこかへ行くのが悲しくなった  
ファインダーとか視線とか夢みたいな構図とか  
決まったようならもう僕の勝ちみたいなもんだけど

リフとかストロークとかそういうなんとかとか  
それは夢みたいにどこかできつと待ってるよ  
そこへ行くことが終わり、そして終わりとは終わり



終わりを歌に乗せて奏でもいいのか

## **8mmフィルムを持って（後書き）**

よくギターが出てきますね。

死ぬとは終わり、終わりは終わり

## はじまるのは

いつだろうか

ピアノが入ってくる瞬間、とてもどきどきする  
高揚感の存在、それはとても醜く悲しいこと  
そして僕の心の中にいつもある劣等感と悲壮感

テレビは叫ぶ、僕らを足蹴にするなど

レコード文化の終焉と間違いを無くした男たちへ

僕が鎮魂歌を歌ってあげよう、そしてぶっ壊してやろう  
歌う喜び、奏でる喜び

感情は轟く、全ての不幸と多幸感に

存在としての歌と修飾としてのサウンド

僕がこれからをもって償ってあげよう、そして懺悔を続けよう  
生きる喜び、死ぬ喜び

はじまるのは(後書き)

(TRUST ME!!)

壊したギターに捧げる鎮魂曲 (walk in the tv)

叫ぶように叩きつけるように響きだす雨のように  
歪んだ目をいつまでも街に向けてた夜もあった  
ほんと、夢みたいだねえ

誰かが窓の外を叩き出してるよ  
ドラムセットをドカドカ叩くようにね  
リズム正しく

テレビの中をいつも歩く少女を  
僕は肯定しきれなかったよ  
誰かが彼女の影を追う時も  
石なんか蹴ってそっぽ向いてたよ

貶し声の中死んだ少女を笑う奴らに  
僕が一番要らない人間で  
彼女を笑う必要なんか無いって  
絶対証明してやるよ  
絶対ね

悲鳴の中広がるテレビに沈む宇宙台所の包丁を  
手に取り叫んだランチ・フォークの為の賛美歌の  
一フレーズだけを何度も叫んでやる  
”君が居なくて寂しい、ほんと”  
それは本当に歪んでる、悲しい程に手遅れな告白  
何も無くていいけど君の喪失だけは耐えられないんだ僕  
誰かに伝えて民衆の目の前で消し去ってやる、今までの全てを

かつて彼女が美しいと思ったもの、醜いと思ったもの  
最後の言葉にしようとした誰かの忠告

しようとした深呼吸を

言葉にして引き摺っていこう

耐えられなきゃ途中で捨ててくよ

言い表せない感情、言葉、その意味、駆使して

精一杯の形を模るよ

難しい言葉や変な言い回しやあれやこれやの修飾なんて要らない  
民衆の目の前で叫んでやる、今までの全てを

テレビの中をいつも歩いていた少女を

僕は肯定しきれなかったよ

誰かが彼女の影を追う時も

石なんか蹴ってそっぽ向いてたよ

僕の傍で静かに俯いていた少女を

信じる為の、

悲しさや虚しさや憤りやの感情を

全て彼女の純粋な喜びに変えてしまおう

所詮第三者の僕が君の笑顔を飾るための

あれやこれや……

独りきりの部屋でうろろしたり

君の向かいに居たことやらを思い出すのさ

もう、何処に居るのかも解らない君のことを思って

ギターを弾いたり悲しんだりうろろしたりする

ひどい悲しみ、そのために

今はもうテレビの中にしか居ない少女

言い表しはしないけど、僕は、本当は自分じゃなく、

「

何も言えやしない、この僕が、この僕は

瓦礫の下で蹲ってるカメラを消し去るための鎮魂歌

乗り越えられるなんて嘘だ 偽りを言い触らすな

悲しまないよ、もう

貶し声の中死んだ少女を笑う奴らに

僕が一番要らない人間で

彼女を笑う必要なんか無いって

絶対証明してやるよ

絶対にね

壊したギターに捧げる鎮魂曲 (walk in the tv) (後書き)

核。 suite 11話まででした。



## フリートーク

君の大好きな曲は  
もう夢の中にしか無くて  
枯れた声を引き摺って  
歌声をたてるさ

僕の大好きな曲は  
もう夢の中にしか無くて  
象みたいな悲しみ背負って  
歌声を操るさ

僕は願ってる  
本当はこれは夢で  
起きたら何も無くなっているんだ  
病院の中で

幸せでも白く塗りつぶされた生活をただ過ごすんだ  
僕の歌ってる歌が答えになればいいけど  
皆が幸せになれる言葉なんか  
何処を探したってある訳無いんだよ

僕の大好きな君は  
もう夢の中にしか無くて  
怒鳴り声然とした寂しさ背負って  
思いを引き摺るさ

## フリートーク（後書き）

枯れてるな。

## どこへ行こう

I was beautiful、そしていつまでも雨の中を  
足を引き摺って歩くことの悲しいことよ  
いつかにした約束をもう彼女は忘れてるかもしれない  
限りなく後ろ向きな再会を

”Life is beautiful!!”

きつと黙りこくったりさもなくや泣いたりしたりetc  
大丈夫、最終電車の乗り賃なら持つてるよ  
今は電車じゃなくてリニアモーターカーだっけ  
今は遠い季節が窓の向こうに通り過ぎるのを見て

きつと僕はあの曲を聴いたり走馬灯を見ながら暇を潰すさ  
全てはもう、ないから  
それは全て前向きな呪文  
居なくなつた人を偲ぶことを

今頃何してるんだろうね  
空を舞うモーターカーに飛び乗って  
そうだ、同じ夢を見てるんだとかそういう捨て文句を用意して  
弾け飛んだボールみたいに死に行く僕の体を

春になったらどこへ行こうかねえ  
自転車乗ってる男の子と女の子  
笑い過ぎて涙が出てくるよ  
消えてしまったフォグランプ  
すげ違える

夏になったらどこへ行こうかねえ  
今までの季節を取り戻したいな  
” 僕らの季節は4つじゃないよ”  
切なげに鳴く走馬灯  
どこへ行く？

秋になったらどこへ行こうかねえ  
夕暮れに満ちた世界をどこまでも行こう  
漂ってるみたいに優しげで悲しい世界だ  
ここを信じるなんて僕には出来ないよ

通り雨が僕の体を叩く  
気づく 戻される  
またおぼろげに……

どこまでも行こう、どこまでも行こう  
どこまでも行こう、どこまでも行こう  
どこまでも行こう、どこまでも行こう  
どこまでも行こう、どこまでも行こう

どこへ行く (後書き)

yeah。終了。

THEX…フィッシュマンズ／SEASON

## ラ・ガーライト伯爵のスキヤット集

なんにもないね、それでもいいよ。

君と二人で居れたんだ。

どこかへいくなら、

どこでもいいけど。

シーラカンスのために一生を捧げるつもりになることなんか絶対無いのさ。

feel on the blue.

僕はたまに、ギターを弾いたり悲しんだりするけど、

その度に、君は笑うよ。

どこにもないなら、

僕は探すけど。

でも、でも、

音楽のためだけに一分間を捧げるつもりになることなんか死んだってないのさ。

feel on the blue.

**ラ・ガールライト伯爵のスキヤット集（後書き）**

2011年3月22日書く（ファイル更新日時より）  
青の上で感じるだっけ  
ジャスト200文字variまし。

## 七日まで

さっきの話の続きはどうしたの？

君はピアノを弾く

間違えずに、たどたどしく

退屈な夜が過ぎていく

君の待つ間に帰るよ

どこにも行きたくなければ

目の前を通り過ぎる景色が

あまりにも遠すぎて

君に全てをあげるよ

間違いない、神様みたいに

朝が来る前に帰るよ

朝焼けを見るために

たどたどしい君のピアノに綻び

夜に溺れるサイケ・メソッド

どうしても其処から弾けない？

恐ろしいオルゴールの響き

安らかに I hate you

夜の皮を剥がして

君の待つ間に帰るよ

どこにも行きたくなければ

いっそドロドロに溶けてしまえ

朝が来る前に帰るよ

朝に来る光



## 七日まで（後書き）

3月2011年21日に書いたやつ（こ（ry  
サイケ・メゾットの意味は聞かないで下さい。  
あとガーライト伯爵。

## 夜明けに飲む紅茶

乾いた心を暖めなおすには時間が居る  
ボサノヴァでも聴きながら夜明けを待つ  
ぼんやりと過ぎる時間が酷く美しく  
間違えてる？

一抹の不安を 駆け巡る安堵を  
ボサノヴァでも聴きながら駆け上がる  
ここから響く震度0の寂しい叫びを  
誰かがキャッチしてくれたら幸運だけれど  
笑ってる？

下の階から 上の階から  
響く響くオルガンの音  
安らぎを与えてくれる一人きりの小さい部屋で  
不安を抱えて明日を待とう  
昇る昇る昇る昇る駆け上がる  
誰かが鳴らす

夜明け前に聞きたい 新しい響き  
新しい部屋 新しい心地 新しい世界  
夜明けに飲む紅茶をそつと溢した  
僕だけが抱えてる小さな世界の形

赤い光の満ちている外側を  
取り巻いている真新しい残酷さ  
誰かが僕の叫びに答えてくれたらいいけど  
聞こえてくるのは幻の懺悔だけで

下の階から 上の階から

響く響くオルガンの音

安らぎを与えてくれる一人きりの小さい部屋で

不安を抱えて明日を待とう

昇る昇る昇る昇る駆け上がる

誰かが鳴らす

夜明けに飲む紅茶は光を浴びて

優しさ 悲しみ 虚しい気持ち

少しづつ無くなっていくよ

それでも忘れたくない 新しい響き

少しづつ忘れていく

新しい部屋 新しい心地 新しい世界

夜明けに飲む紅茶は光を浴びて

僕だけが抱えてる小さな世界の形を

そっと……

夜明けに飲む紅茶（後書き）

右に同じ。

THX・・高橋徹也「in the mood」

## M a d e i n s t e r e o

ララバイ、ララバイ、

ステレオは喋りだす

朝の天気予報

全ては夜になってわかるはず

君と居るだけで幸せさ

傘は無いけど

ララバイ、ララバイ、

ステレオは喋りだす

白昼夢を見る

悲しみを捨てただけ

君と居るだけで幸せさ

傘は無いけど

コーヒーに砂糖を、

差別人種に革命を、

ヒーローに処罰を、

ミュージシャンに金銭を

与えられるようになったら幸せさ

でも、

全て遅くなってからわかるはず

ララバイ、ララバイ、

ステレオは喋りだす

夜の胡蝶の夢

悲しみを捨てただけさ

ララバイ、ララバイ

ララバイ、ララバイ

**M a d e i n s t e r e o (後書き)**

20110316

俺3月に書きすぎ自粛しろ(色んな意味で)

## スカイダイビング

いつか誰かが捨てた星屑を  
僕はずっと眺めてる

僕は君が欲しい、ほんとに  
真夜中でスカイダイビング。  
躊躇せずにスカイダイビング。  
本当はとても怖い。

おちる

罪を被ったから

おちるおちるおちるおちるおちる  
深く被った帽子が消える

落ちていく

日と日に接近通過。

真夜中2時にスカイダイビング。

千鳥足のスカイダイビング。

ゆらゆら揺れてる

飴色の帽子のつば消える

ゆらゆらゆらゆら

君の黒い髪風に靡くのを思い出す

日に日に近づく太陽に接近通過でスカイダイビング。



**スカイダイビング（後書き）**

23日2月2011年つ

## 日曜日の寝室

日曜日の寝室で吐く息は白い

子供だましみたいなのガムを君は噛んで吐き捨てる  
噛んでは吐き捨てる

なにか、とても、虚しさみたいのが、渦巻いてるよ。ね？

僕はいつもよりなんだか切ない。

泥みたいになどわりつくのを僕は払う

いつも寒そうな笑顔をしてる君の真似をしていた

真似をしている

真似をしている

悲しみと嬉しさが同時に僕を襲う 寒気

たがために鐘は鳴る

” Good bye ? ”

君はいつも白いドレスを着ている

まわりつく冷めた言葉 白い 白い 白い

君が帰ってきて嬉しいね、僕は

「君と居るだけで幸せ なんて拙い言葉。」って君は言った

何故か 今 とても 冷めている 冷めている サメ

冷めている 嬉しがっている 冷めている 冷め さめざめと

僕はいつもよりなんだか切ない。

覚えてる？

悲しみと嬉しさが同時に襲ってきた瞬間を

悲しいこともあった

嬉しいこともあった

虚しいこともあった、けど、  
覚えてる？

覚えてる？　ねえ、

覚えてる？

君はやけに冷めた目つき

今　やけに　とても　なぜか　冷めている　冷めている

「あなたに会おうだけで幸せだったわ。」さめざめと

「あなたに会おうまで幸せだったのに。」泣く

泣いている

君は今

さめざめと泣く瞬間

床に涙が落ちる瞬間

1コマ

何故か　今　（何故？）　か　今　何故？　冷めている

僕は、今、とても、冷めて

冷めてる

冷め

（悲しみと嬉しさが同時に襲う瞬間。）

目が醒めると知らない部屋。

君はいつも白いドレスを着ていた。ね？

僕に身を預けなくなたって良いんだよ

僕に、涙を……

僕に身を預けなくなたって

僕に……

ぼやける視界。

目が冴えると知らない君。  
視界を閉じると知らない場所。  
僕に身を預けなくなつて……  
涙が染みを作る。

朝が起きる。

いろんな幸せ、いろんな感情を抱きかかえる。  
何も言えない、その美しさに  
覚えてる？

悲しみと嬉しさが同時に襲ってきた瞬間を

君がいなくて悲しい とても

誰かが夜を過ごした瞬間

まどわりつく冷めた言葉だって フレーズを超えるフレーズだって  
僕は……

今、何も言えない。

今、何もかも言えない。

いま、何も……

” G o o d b y e ? ”

## 日曜日の寝室（後書き）

1月だっけ？ 一種の分岐点になったやつ。

## カルガモウィークエンド

カルガモウィークエンド

花屋で菊を買って

葬列に交わる黒色の僕

犬や猫を軽視して

人だけを大事にするなんて

どうしようもない

とは僕は思わない

そう言えば ねえ

此処に来る前に朝方の

自転車登校の男の子

コンビニで飴玉の

袋を買ってね

一つ口に入れたら

林檎の味がした

そう言えば ねえ

此処に来る前に川岸の

家の窓から猫が僕を見つめてた

エコロジスト2010

何でかってこんなのは間違い無いって

三分間に何回も君が言い続けて

そう言えば ねえ

個々の種族の寿命がってなんて物理教師  
ノートに落書きしてたよ

カルガモウィークエンド  
花屋で菊を買って  
葬列に交わる黒色の僕

カルガモウィークエンド  
ボンネットミュージック  
ワールズエンドドロップス  
街を眺めてる

## カルガモウィークエンド（後書き）

2010年秋？

何故物理教師が「個々の種族」の話をするのか。

しかし自転車登校ってワードどっから出てきたんだか。  
ボキャブラリーそんな無かっただろお前。



## メトロノーム

歩き出すたびに疲れて肩で  
息をする度に思うことは何

そうしてそこまで執着することは何  
名前も知らない子猫に名前をやった

日々を疲れて生きることに疲れて

それでも息をする度に思うことは何  
そうしてそこまで思うことは何

名前も知らない 僕は知らない

そう 願ってた 思ってた

君が何だか疲れた

僕も疲れた

「何で生きてるんだろう」

ミスをする度思うことは何  
願うふりして割り切ってる  
僕が嫌いだ

何故か僕は忘れてた  
君のことを忘れてた  
僕が疲れた君は精一杯  
生きていたのにどうして

ビートを刻む 刻む  
息をする 君と共だった  
弱く音を立てる 立てる

弱く息を吸う

そう 思ってたんだ  
君は僕から離れて  
僕はなんだか疲れた

そう言ってもねえ  
僕は日々を生きていて  
君のことを思い出して  
生きている 息を吸う  
刻んでる 呼吸をする  
涙する 思う叫ぶ  
刻み込む 呼び戻す  
そんなの無理だって割り切る

歩き出すたびに疲れて肩で  
息をする度に思うことは何  
そうしてそこまで執着することは何  
名前も知らない子猫に名前をやった

## メトロノーム（後書き）

2009年行くかも。

とりあえずこれで打ち止め。

好きなフレーズがありましたら。

## 坂道

下手糞な口笛が夜を舞う  
上り坂を僕は歩いていく  
夜の明り 街の灯火  
ゆらゆら揺れて

いつかここで君が蹲った話を  
誰かにしてあげるのさ  
そして繋いでくれ、  
継ぎ接ぎだらけの夜を

誰かが肩を叩くけど  
僕はいつも一人で歩くんだ  
僕はもうここに居ないよ  
今はずっと影ばかり追っている

いつかどこかで晒う君の亡霊を  
ドアの向こうですっと待ってる  
待ち侘びてるんだ  
悲しい夜も嬉しい夜を

言葉にならない繰り返しばかり  
泥みたいな話ばかり繋いで  
もう君はいい、僕はそこには居ない  
下手糞な口笛が夜を舞う

## 坂道（後書き）

独りにしてくれ。

## アメダス

フェードイン&アウト

眠れない夜を飾る音楽に祝福を

アウトロはどうか長く、終わらずに  
そんな17歳の夜

原油のつまった丸タンクの

下をいつも歩いていたんだ君と

古い地図に雨粒が降る

耳のすぐ近くで風が鳴っていた

どこか遠いところで風が鳴っていた

フェードアウト、それで終わり

少しかじったポップネスに終焉を

どこか冷たい朝焼けの空気、

切ない古い季節のどこかの音楽

原油のつまった丸タンクを眺めて

周る周る飛行機の空撮写真を眺めて

僕じゃない僕のための頃の景色を見せて

今だけいつかの夜みたいって君に言わせていたい

どこか遠いところで風が鳴っている

アメダス（後書き）

THIS POLARIS

## 馬鹿みたいな国家を今にもぶっ潰しそう

うるさいなあお前らそう言うんじゃないだろうよ

頭でっかちなお前らには何も出来ないだろうよ

海の方こうの変な国が今にもお前らにミサイル打ち込もうと  
打ち込もうと打ち込もうと打ち込もうと打ち込もうと

打ち込もうと打ち込もうとしてるぜ

ほら僕ら馬鹿みたいな国家を今にもぶっ潰しそう

ほら僕らストレスだけで国家を今にもぶっ潰しそう

ほら悲しみのためだけに国家を今にもぶっ潰しそうだぜ

ねえ君は一体僕のどこがそんなに不安で不満なんだ？

服も洗うし飯も作るし週に一回は高いのも買うのに

こんなアパートじゃ恋も疑惑になって襲いかかってくるというのか  
襲いかかって襲いかかって襲いかかって襲いかかって

襲いかかって襲いかかっていくのさ

ほら僕馬鹿みたいな国家を今にもぶっ潰しそう

ほら僕イライラして国家を今にもぶっ潰しそう

ほら僕君への不満で国家を今にもぶっ潰しそうだぜ

恋も政治も同じ扱いだって言うんならどうしたらいいんだぜ

ほら君今日も僕の怪しい所を見つければすぐ殺せる準備が出来てる

ほらこの馬鹿みたいな国家はこいつと同じようにすぐ国民を生き殺し  
今にもミサイルが打ち込まれようとして打ち込まれないと

打ち込まれようとして打ち込まれようとしてるぜ

ほら僕ら馬鹿みたいな国家を今にもぶっ潰しそう



ほら僕ら不満が溜まって国家を今にもぶっ潰しそう  
ほらお前らへの不信のせいで国家を今にもぶっ潰しそうだぜ

うるさいなあお前らそう言うんじゃないのかしろよ  
お前の信じるお前らはそんなことに躊躇していられるか

## 馬鹿みたいな国家を今にもぶっ潰しそう（後書き）

えーと。

・この詩は東北地方太平洋沖地震や諸々のことについてあまりにも対応が鈍く不安定な今の民主党というか管政権に対しての恨み節です。

・なのでいきなり出てきた海の方こうの変な国ってのはあんまり関係ないです。韓国か北朝鮮なのかもどうでもいいです。工作人員の方ご容赦を。

・恋のくだりも例えなのであんまり関係ないです。

・根本的に大事なものは「馬鹿みたいな国家を今にもぶっ潰しそう」の部分なのです。

**y e t   &quot;   s a y   &quot; ;   n o t**

ここにはいない、僕はいない

きつとアパートの12階のトイレぐらいしかない部屋で

ご飯を食べたり本を読んだりギターを弾いたり

パソコンしてたりテレビを見てたりしてるんだよなあ

相変わらずだなあ、僕はどこに居るんだ？

きつと具体的な言葉は誰も望んじやいないけど

そろそろバイトの時間だし何もしないし放課後ないし

昼休みにはきつと休暇も取れるしテンポも良いし

会話の弾む人間が僕の傍に居てくれたら

それはきつと君、青白い物体

疲れすぎだよ、眠った方が良いんだ

君の顔が三つに見えるから狂ったふりした方が良いんだ

だるいんじゃないかって狂ってるって答えも出せば…なあ

僕は日々を生きていてうきうきする時間が無い

音楽聴いてもα波出ても韻踏んでも詩を書いても

どこかで冷めた自分にじろじろ見られてる気分になる

それはきつと未来の自分、過去の自分に用が無いから

明日起きたらすぐ君に電話するよ

紅茶飲んでもコーヒー飲んでもコーラ飲んでも麦茶飲んでも

ギターを弾いてもベースを弾いてもドラム叩いてもピアノ弾いても

君の話を聞いたりノイジーなグルーブに浸っていたとしても

支離滅裂な行動で明日医者にあなたは統合失調病ですとか言われた

としても

僕はいつもきつとだるく狂ってまるく収まってるだけだから  
猫みたいって笑ってくれよ、下さい、お願いします

だって猫って可愛いから

僕を信じてくれたって期待に答えられる訳じゃないけど

きつと音楽で食っていけるようにはなるから：さあ

だから、ね？　つまり：言ってること解るでしょ？

僕の前から消えてくれて俺は言いたいだけなんだよ。

**y e t   &quot; ; s a y &quot; ;   n o t (後書き)**

なにをいいたいんだろうかじぶんでもわけわかりません☆ミ

## フライ、イット、フライ、

投げた石がお月様に当たって

その夜お月様が赤くなっている

僕は変わらず血を流すから

当たり前みたいに君は気にしないでいて

朝にした恋の話のせいで

その夜お月様が赤くなっている

僕はきつと君に電話するから

君はどうか死なないでいて

僕に感じる君の違和感を消してみせるから

君の好きな音楽を僕も全部聴いてみるから

信じてるこの世界のために何か出来るって証明してあげるから  
重たい気分のためにどうかこの世界から消えないでいて

消えかかったボールペンで

ノートに線を書き続けるんだ

できた像はイルカの絵だけど

役に立とうとして逆に空回り

飛んでるツバメを見てて

どうしようもなくそれが恐ろしくなるんだ

この世界が明日消えてしまうように

僕も明日誰かに消されてしまうのか

僕に感じる僕への恐怖心を捨ててくれたなら  
君が僕を信じてくれたなら

もう一度夜を歩いてくれたなら  
僕は君を

フライ、イット、フライ、  
(後書き)

役立たずのイルカと言えb



## 怯えた子猫のような目をして

弾かれた胃が怯えた子猫のような目をして  
こちらをじっと見つめてくるのを  
誰か止めてくれないか

向かいに見える家族の肖像画は  
いつも綺麗に笑ってみせるけど  
本当はそれは偽りの姿で  
本心はガラスの向こうに消えていく

のっぺらぼうみたいな僕の顔  
ひどく疲れてるみたいだけど  
ラジオの傍で外国語の音声  
菓を一粒飲んだらもうそこは色んな世界

ダンスステップ  
真夜中のクラブホールは空気が淀んでる  
そこで僕らは狂氣的な踊りを披露するのさ  
まるで足が三本あるようにね

日々のサイレンの中で  
僕らは怯えた子猫のような目をする  
脳を抉られるような居心地の悪さを  
でも菓を一滴射れたらもうそこは色んな世界

スタジオライブ  
僕らはいつもご機嫌な天気の中  
幸せなことがらだけを喋りまくるのさ

でも本当はそれは偽りの姿で  
本心はもうどこにもないから

ダンスステップ

真夜中のクラブホールの中に突然  
響き渡るサイレンの音に僕は

怯えた子猫のような目をして一部始終を見つめてる

**怯えた子猫のような目をして（後書き）**

いつぞやの某氏に贈る。

狂的に明るい音楽を聴いて。



## **I Love You (後書き)**

ここからちよつと連編っぽい。

恋愛小説とか特定すると最近のスイー

## お前の後ろに張り付いてる毛虫の声がいらつくのさ

なあ聞こえるか？ その声が

お前みたいなインテリ気取りには聞こえないかもしれないな  
7分超えの曲をさも得意げに聞き

ビートルズを足蹴にするお前に

そのお前の後ろに張り付いてる毛虫の声がいらつくんだよ  
だから俺から離れてくれないと今すぐ

その毛虫を食っちゃまうぞ

なあ聞こえるか？ 俺の声が

お前は得意げに俺を触りたがってるけどな

本当は俺はお前が大嫌いなんだ

尋常じゃない撫で方で俺の機嫌を取るのはやめろ

お前の後ろに張り付いてる毛虫の声がいらつくのさ  
だから俺から離れてくれないと今すぐ

その毛虫を食っちゃまうぞ

お前ごと

**お前の後ろに張り付いてる毛虫の声がいらつくのさ(後書き)**

猫って可愛いですよね。

## ムラサメユウキ君は空の上

ムラサメユウキ君は空の上、雲の上

寝転がって大好きなマンガを読んだりしてる

ね、ムラサメユウキ君が誰かなんて誰も聞かないで

彼は彼以外の人間が疑問を持っていたとしても気にも留めないはずだから

ムラサメユウキ君は空の上、雲の上

神様にお母さんに会えるようにお願いしてる

ね、ムラサメユウキ君が二酸化炭素を排出してないとか知らないで問うべきは死んでしまった誰かよりも日々を無駄に消費してる自分じゃないの？

ね、ムラサメユウキ君は生の苦しみから解放されたとも言えるよね  
そんな風に考えるなら二酸化炭素を出すより死んだ方がましじゃないの？

ね、もし僕の言ってることの意味がわからないなら  
まずは素直にその宿題を終わらせた方がいいと思うよ



## ムラサメユウキ君は空の上（後書き）

ムラサメユウキって誰だよ！

同じ名前の方が居りましたら申し訳ないです。

## 頭の中でころがってる

ほら 見えるかい僕の好きな本

目が見えないみたいに瞑っちゃって

何も入れたくないんだろ？ 君の目に

ほら頭の中でころがってる

頭の中でころがってる

頭の中でころがってる

だけ

土台が無いから雨降っても

地固まらず君は悲しんでるんだよ

意味ある？ 死んだら同じじゃないの？

ほら頭の中でころがってる

頭の中でころがってる

頭の中でころがってる

だけ

Psycho-delicな気分になってる

君の心を探り出している

頭の中でころがってる

ほら頭の中でころがってる

頭の中でころがってる

だけ

**頭の中でころがってる（後書き）**

ゆらゆら帝国みたいな。

**m a a a a ! !**

叫べよ俺のトレードマーク

並べよ神のフローズンアイス

比べよ君の第三方程式

ここには何も無い

ここには何も無い

ここには何も無い

ジュゴンの這い踊り怖い怖い怖い

幽霊の秋祭り怖い怖い怖い

シュールな歌詞カード怖い怖い怖い

そして真面目な君の顔といったら

世界の何よりも怖い怖い怖くて面白い

選ぶよ俺のフローズンアイス

遊べよ近所の泥棒猫と

嫌でも裂けるさ大人になったら

ここには何も無い

リフレインは必要ない

ここには何も無い

マスに入った米の声怖い怖い怖い

道端で倒れる人の数怖い怖い怖い

数人だけで喜び遊ぶ怖い怖い怖い

そして真面目な君の顔といったら

世界の何よりも怖い怖い怖くて抱き締めたい

**m a a a a ! !**  
**(後書き)**

これもゆら帝っぽいですね。

というかここら辺ゆら帝っぽいの多いです。

→

イライラすんだよほんと

でも→に向かつて

でも→に向かつて

でも→に向かつて行きたいなほんと

不用意に用意された余韻が

まあ→に向かつて

まあ→に向かつて

まあ→に向かつて行けばいいよね

黙って見てる君の心が

さあ→に向かつて

さあ→に向かつて

さあ→に向かつて行けばいいのに

イライラすんだよほんと

でも→に向かつて

でも→に向かつて

でも→に向かつて生きたいなほんと

それは用意された高揚感

ほら狂いだしてる

誰もが→に向かつて

→に向かつて

→に向かつて生かされてるんだほんととは

→ (後書き)

陰謀論みたいな。  
相変わらずゆら帝。

## 学生時代

学生時代僕は独りきりでパーティをしてる  
幸せそうだね君は

僕といたら超個人的な：

でもいいよいつか悪夢が押し寄せる

そしたら君は苦しみきって自殺すりゃいいんだよ

モットーは無いって言葉を君は欲しがってる

人の不幸が美味しいのさ

僕といたら子供の頃熱出した夜に見た

畸形の赤子たちのお喋り会の夢がもう一度見たい

畸形の赤子たちのお喋り会の夢をもう一度

畸形の赤子たちのお喋り会の夢をもう一度

君は笑って医者に行けって言うのかな

畸形の赤子たちのお喋り会の夢をもう一度

畸形の赤子たちのお喋り会の夢をもう一度



## 学生時代（後書き）

もし僕がそんな夢を子供の頃に見たら  
一生忘れられないトラウマになってますね絶対。

## fairy と ane

フェアリーとアンネ、彼女たちはいつも仲良し  
フェアリーはいつもアンネの腕を引き千切る

笑いながら追いかけるアンネから

泣きながら逃げていくフェアリーの対比

僕はそれをほほえましそうに見てるだけ

思い出したよ古い洋館で

いつか僕が忍び込んだこと

顔のない体型の良いご婦人と

楽しい楽しい晩餐会をしたことを

さあおいで、おいで

楽しいことはもう何もないよ

だから逃げるんだ、世界の終りまで

さよなら、さよなら

遠く弾け飛ぶ車を追って

崖に落ちてゆく車を見た日

面白そうに銃器を持って

楽しい楽しい晩餐会をしたことを

さあおいで、おいで

楽しいことはもうここにはないよ

だから追うんだ、妖精の羽ばかり

おはよう、こんにちは！ フェアリー・テイル

さあ、おいでみんなの心の中を

錐でガスガスと抉ってやろう

だから逃げろよ、世界の果てまで  
さよなら、さよなら、いつてらっしやい

フェアリーとアンネはまだ追いかけて  
フェアリーはアンネの肢体を引き千切る  
気狂いのように追いかけるアンネから  
気狂いのように逃げていくフェアリーの対比  
僕はそれをまどろみながら見てるだけ

**f a i r y と a n n e (後書き)**

こわいねー

## a n i g h t i n n i g h t

夜明けまで過ごした部屋を泣きながら眺めてる  
希望に満ちた、睡眠

夜の中に沈んでいくんだ  
それは果てしない闇に満ちた、光の瞬間

部屋の向こうから飛び出す秋の予感さえ  
黙るような、絶望を

夜の中に沈めるんだ  
それは絶望じゃない、希望を持つ悪夢

フローラル・ブルーの香りだけが辺りに舞う  
形のない平凡な夜に居る静かな鼓動  
泣き叫べばいいのに、出られればいいのに  
トンネルは低く遠い

こっちに来て、隣に居てくれればいいのに  
僕の縁にはもう誰も居ない  
閉めるドアに朝の気配が  
僕をそっと夜に押し沈めていく

閉めるドアは朝の気配だけ

**a  
n  
i  
g  
h  
t  
i  
n  
n  
i  
g  
h  
t** (後書き)

THX .. 高橋徹也 「夜のとばりで会いましょう」

## 朝に続くおとぎ話

覚えてる？　きっと切なさに満ちた瞬間を  
音楽で涙を零した瞬間みたいに  
僕にはわからないことだらけだけど  
扉の近くには本が積み上げてある  
朝に出るまでトンネルで暇を潰そうぜ

君は今にも家に帰りたげで  
闇の恐怖に身を屈めているよ  
解る？　だって自分の体だもんね  
でも大丈夫さ、朝はもうすぐだから  
布団に包まって朝を待ち遠しにしようぜ  
慰める言葉は何も出なかったけど

君はとうとう泣き出して  
今にも上がる日を待ち遠しいと  
僕には何もできない  
慰める言葉なんか出ないよ  
僕にはそんな当たり前のことができない  
朝はもう永遠に来ないかもしれないのに

朝に続くおとぎ話（後書き）

やめようぜ、もうこんなこと



## 舐めたくる紅

テレビで映った不眠猫たちのたむろ  
他の人間と違って俺は違和感を感じた  
後ろから二番目 左から四番目の  
あの猫は俺の飼い猫じゃないのか

やばい程泣いちゃえばいい  
やばい程泣いちゃえばいい  
やばい程泣いちゃえばいい  
やばい程泣いちゃえ

午後三時東京都千代田区三崎町

二丁目の水道橋にて中央線から降りて  
俺が最初に聴いたのはハードコアなのに  
周りの人間は皆お洒落なクラブミュージック  
俺はそれを見て東京人は信用出来ないと思ったね  
明らかに可笑しいと思う人間なんか居ないもん  
中央線には馬鹿が多すぎるから俺もね  
人身事故で乗り換えできずに困り果ててて

恋は血みどろ舐めたくる赤  
音質悪くて悲しいねって  
さも悲しそうに笑いながら  
人轢ねる

本当に信用出来る人間なんか居ないだって  
悲しい悲しい郷愁感を大事にして  
セブンス・コンビニエンスの裏を通る電車

やばい程泣いちやえばいい  
人轢きや帰れる  
やばい程泣いちやえ

**舐めたくる紅（後書き）**

行きはよいよい、帰りは怖い

## 明日の住民

行かないでって言うてくれ

夕焼けが待ち遠しいんだ

君は黙って薄く笑って

ああもう負けたよ、どこへでも行けよ

僕は音楽が好きだけど君は嫌いだな

見透かされた気分になるから

解ってるよ、本当は飢えてる

猫の顔はいつも通り満足げに

夜の街

川に光は流れる

透明な闇の滴に弾け飛ぶ明日

信号機は要らないよ 明日

ここを発つ

僕はハチガツが好き、君は

ベンチに座って通り雨の話をしたこと

坂道を走り去った見覚えのない女の子のこと

僕は忘れてるって言うのか？

覚えてるよ

夜の街

透明な色のダンス

笑いながら夢を眺める君の顔を

信号機は要らないよ 明日

彼女を絶つ

ラララと歌う

弾け飛ぶ夜の感触

ラララと歌う

弾け飛ぶ夜の風景

ラララと歌う

怒鳴る昨日を絶つ声

ラララと歌う

叫ぶ明日を絶つ声

ラララと歌う

解ってるような顔をする

ラララと歌う

解ってるようなふりをする

ラララと歌う

何も解らない癖して

ラララと歌う

解ってるような君も全部

## 明日の住民（後書き）

腹痛え…腹痛え…ダンスどころが星が…

## three method three

雨戸が開かないから虚しくなるね  
君は流暢な関西弁で僕を誘うけど  
僕は三つの時にもう妄想症を克服したのさ  
だらけ融ける世界にも

僕は聖歌が好きでない、それはもう  
夢でCD買う夢見たけれどね  
神様なんてほんとは居ないと思うから  
それはね、まあイワシみたいだね

マグロ、マグロ、巡れ詰れ  
精神世界に住む小人  
僕は鉄道映画を見て……ね！  
静かな違和感が突き抜けるのさ

ああつきぬけらつきぬけら  
石を積み上げる子供達が僕を見るけど  
僕は三つの時にもう妄想症を克服したのさ  
だからまあイワシみたいだね  
ビグビグ撥ねる

君が神のようだって僕は気にしないのさ  
跳ねた予感に水は差さないけどね  
でも神様なんてほんとは居るけどね  
昨日僕がスタンガンで撃ち殺したけどね

マグロ、マグロ、刎ね孵れ

部屋の後ろに赤い窓

僕は漁港の写真を見て……ね！

静かな違和感が突き抜けるのさ！

ああ、ああ、窓の外に！



**three method three (後書き)**

キケンサリ

## 屠畜場の夕景

銅靴はトツトツと土を踏む、  
赤い窓、内には何も無い  
傷口を塞がれた女たちの静かな懺悔を耳に刺す  
解っているか、赦し難い悪令

バラバラの髪が滲む  
川べりの苔の病気を治せない若い奴ら  
それを苦に自殺を選ぶ牛を選んでは  
赤い眼に大きく映る

解っているか、悲しみ易いところ  
怒りは疚しく川へ流れ去るその話  
喰べているのか、その約束を  
怒りは同情さを超えて此方に向う

フラフラと頭は揺れて  
ぐちゃぐちゃの朽ちた王像  
哀しみ安い同情を振り撒く奴らの囁をいつも心に  
解っているか、悲しみ難い人像

解っているか、喜び遊ぶところ  
怒りは優しく首を撫で刎ねる屠畜場の夕景  
続べているのか、その感情を  
怒りは同情さを超えてどこへ向う

## 屠畜場の夕景（後書き）

メッセージ性高し。

## キケンサリ

神の告げみきたいな音の集まりが僕を打ち砕く  
どうしようもない多幸福感、やばいこの状態  
韻踏みゃ幸せ

”君は黙ればいいのに”

キケンサリ！ キケンサリ！  
抜けられない赤い涙の走る雨  
キケンサリ！ キケンサリ！  
もう君なんて死んじゃえばいい

家に帰れば銃口が啼く、喚き散らしてぶっ殺す  
フリー・ソウルが作り出したらもう幸せいっぱい  
壊せよ多幸福感

余りある違和感

”君は黙ればいいのに” って、  
ねえ？

キケンサリ！ キケンサリ！  
怒るなよいつも君は女の子見てる  
キケンサリ！ キケンサリ！  
足をバタバタさせるのに加速度10で

ぶっ殺せよ君のバーボン・ハウス  
喚き散らして晒う男どもの群れに  
突っ込んで行けよ、青いパトカー！  
危険去ったらまたやり直し

キケンサリ（後書き）

THX .. コーネリアス「New Music Machine」  
2ch 批判。

## モノクロ激情

” m o n o c h r o m e   p a s s i o n ”

ひどい悲しみ、そのために

赤黒い眼を血走らせて

馬鹿みたいに踊り狂ってしまっている

悲しくないの？

歩調を誰かに合わせてさも

楽しそうに笑い狂う女の子

その誰かは女の子の手を引いて笑っている

恐ろしくないの？

そいつらをダンプカーで蹴散らす警察官

ただただ不穏な考えが胸の中を蹴散らしてる

大事なことはもうとつくの昔に捨てていたの？

ビルの屋上にある動物たちはとつくに死んでいたの？

それを労る悲しい気持ちはゴミ箱に捨てていたの？

「悲しくないの。」

## モノクロ激情（後書き）

この章でやめにしようかな。

## ELECTRIC GUITAR STAR

”electric guitar star”

お月様が私の気持ちを荒々しくさせていく

真っ赤なドブ川に沈んだ気持ちはそう元には戻らないよね

あの夏の黄色い自転車置き場のことは考えないよ

ところであのエレキはどこに捨てただとか

死んでしまえばもう辛くはないよね

死を肯定的に見れるんなら誰だって幸せになれたのに

コーヒーを飲むだけで死ねたなら喜んで飲み干しただろうに  
ところであのエレキはどこに捨てただとか

良質な音楽に死と性と暴力と悪意なんて必要無いって

思想性を捨てられたらもうそこは幸せだよ

でも考えられずに死んでいくなら思考するのは大事だろうに  
ところであのエレキはどこに捨てただとか

言っていないよ？

言っていないよ？      ただ、さあ、

もうこんな生き方はダメだって言いたいんだけど

ナイフを持ち出すのをやめて、私の言うことを聴いてくれたなら  
手を出さなくたって良いんだろうに。



**ELECTRIC GUITAR STAR (後書き)**

ラッタッタッタライン美沙子が好きだー

## **f i i d   b a c k   l a b   l o v e s**

” f e e d b a c k   l a b   l o v e s ”

君は猫が好き    僕は山が好き

墮落に満ちてしまえよこの泥棒猫め

そうは言っても君の気持ちは離れることはなく  
町に満ちたダンプカーを避けながら

ねえまずはその煩い尻尾を仕舞って振る舞いな

ねえ忘れることはないかいその気持ちを、

君は綺麗な僕が好き、僕は汚れた君が好きだな  
そうは言っても恋枯は既に満ち足りることはなく  
町に満ちた保健所から逃げ出しながらも

ねえまずはそのまずい臭いをどうにかしなさいな

ハジキさえ持ち出しちまえばこっちのもんだよな  
しかし数日前にダンプカーに轢かれた君の魂は  
未だにここらを彷徨っているらしい

ねえいい加減僕の後ろをついてくるのはやめなよ  
ねえ僕今だから言えるけど君のことが大嫌いで  
恋愛と希望に満ちた未来なんて真っ平ごめんだね  
ほら君僕をダンプカーの餌食にしよう

今にも押し出そうとスタンバってんだろこの下衆め  
今だから言えるけど僕は三毛猫が大好きでね  
悪の使者みたいな黒猫は本当は大嫌いだったんだ

**f i i d b a c k l a b l o v e s (後書き)**

M.  
I.  
S.  
A.  
K.  
O.  
美沙子に  
K.  
O.  
美沙子聞けよ

## 朝日の中に血奔が

" bloodshot in the morning

少女はいつも町通りの花屋でハスの花を売っている

夕焼けが今日はいつともより奇麗だねって毎日言っ

いつも悲しそうな笑いをしているその子の後ろで

父親はいつも変な目をして睨んでくるんだ

君は奇麗だった

少なくとも僕のエレキギターの音色よりは

痣なんか見ないふりすれば平気だった

少しだけ怒るような顔すればすぐに大人しくなった君の目は血走った

朝日の中に血奔があって

町の奴らは皆ラヴソングを歌っている

僕ら二人は今にも夕焼けの中飛び出して

綺麗な水の流れ見ながら川に飛び込んでしまうさ

君は奇麗だった

少なくとも僕の瞳と心の中よりは

痣なんか見ないふりすれば平気だった

でも少しでも怒るような顔すればすぐに君の目は濁りだしてしまった

朝日の中に血奔が映えて

ラストダンスは皆上手く踊れるんだ

僕ら二人は奇麗な夕焼けの中飛び出して

少しだけ赤く染まった川の中で自らの体を傷つけあうのさ

## 朝日の中に血奔が（後書き）

なんか、昔書いてた詩のスタイルを初めて昇華出来た気がしました。

## ハチガツ

悲しい気持ちはどうか捨てないで  
死に行く気持ちをどうか大切に  
八月はもうすぐ終わってしまう  
夏は寂しい気持ちでこころを沢山にする

↓僕はモノクロにならない

ずっと記憶の中のままで色づきはじめ

僕は今藍色のどん底に沈む

僕はハチガツを覚えている

僕は忘れられた夏の住民

まだそこを引き摺って立っている

あの女の子を僕は知っていた

作品になりつつある彫像を

死者にダイエットを強いよう

あの女の子、ハチガツに大きな木に

首を吊って

僕はハチガツを覚えていたい

僕はハチガツを覚えていない

あの黒い髪の子とハチガツを

長いひと時の一秒

さえも

終わる時に悲しむなんて僕には出来ないから

悲しくなるけど

どうか泣かないで

## ハチガツ（後書き）

なんか僕ハチガツに未練なんかがあるんじゃないか。  
言葉の響きが良いだけか？

## ゆず果汁大好き

” i l i k e y u z u j u i c e ”

自転車で街を走ってる

公道はどことなく狭いけど大丈夫さ

小学生達を抜いて走ってる

君のために君の家まで今すぐとばすよ

さあ今すぐ自転車の後ろに乗って

悲しみの向こうにでも出かけようぜ

坂道を登り切ったんなら

もう僕らはどこにでも行けるさ

風を切って走ってるのさ

僕らどこまで行けばいいんだろうね

でも大丈夫さ君が居ればね

だから今はもういきなり居なくならないで

さあ今すぐ自転車の後ろに乗りなよ

海でも見に行こうぜ

ほら街を抜け出したんなら

もうそこはどこでもない景色が待ってるさ

さあ今すぐ自転車の後ろに乗って

悲しみの向こうにでも出かけようぜ

坂道を登り切ったんなら

もう僕らはどこにでも行けるさ



## ゆず果汁大好き（後書き）

タイトルは僕のことです。

俺の心の叫び愛してる愛してるー

どこにもない八月をずっと眺めていたい

" i want to look all the way no  
where in August "

沼辺にはハスの花が咲いてる

君はしゃがんでそれをいつまでも見ている

光らない沼辺に映る光の色が今はとっても綺麗だぜ

君も静かに僕の手から離れて沈んでいくと言うのか

林には首つり死体なんてどこにも無いけれど

あと少しでここには二つ増えるね

ねえその前に綺麗な水の色を見に行かないか

君の顔は今清々しくてとっても綺麗だぜ

なあそっちには何も無いぜ

どこにも行かないで、二人でハスの花でも見てよう

どこにもない八月をずっと眺めていようよ

ねえ何故僕の言うことを聞かない

今にも君の心は萎んで君への恨みを吐き出すだろうにね

だからその黒い髪をちょん切ろうとするのはやめなよ

だから深い闇の底に沈もうとするのはやめなよ、ね

赤黒い君の手にミミズが這った跡

雀の声が耳にこびり付いて離れないよ

ねえ僕はどこにもない八月をずっと眺めていたい

池に映る美しい空の色を見ていたかったのに

ねえ君がどうしてもそっちへ行くなら

僕はどうしようもない切なさに満たされるけど

死を迎えた君の顔はとっても美しそうだから

沼の中に埋めてあげよう

なあそっちには何も無いぜ

どこにも行かないで、二人でハスの花でも見てよう

どこにもない八月をずっと眺めていようよ

ねえ何故君はそんなに急ぐんだい

今にも僕の心はどうしようもなく締め付けられるのに

だからその綺麗な手首を傷つけようとするのはやめなよ

どうしようもなく悲しい顔をして笑うのはやめなよ、ね

**どこにもない八月をずっと眺めていたい（後書き）**

因みに一番上の英訳タイトルは直訳です。

## M N Q L   o   r   C A T

例えば人間

優し過ぎて恐ろしくなるね

君は少し煩すぎるから黙って欲しいけど

例えば猫

可愛過ぎて反吐が出るね

街に住んでいた女の子

車の渦に巻き込まれて

なあわかるかい？ この悲しい気持ち、憤り

モノクロ成り代わる激情は遠く解き放たれ

今にも天に昇っても良かったのに

悲し過ぎる結末がまだ背後に待ってる気がする

モノクロか猫か

安らぎを求めるには愚かすぎる

白黒を謳うのをやめたい

君の顔に泥を塗るのはやめたい

間違えずにいた夜のことを

間違えてしまった夜と置き換える

**M N Q L o r C A T (後書き)**

反吐、反吐、汽車

# JUST IS BLACK

夜になっても反吐が出る  
眼を瞑れば壊れた女  
嫌なことばかり思い出す  
抗鬱剤を飲んでみる

全部黒になる

白か黒になる

JUST IS BLACK

青春はオレンジの思い出

呻き声しか出ない

こんな終わりは嫌なんだ

こんな終わりは嫌だよ

僕は安定剤を飲んでみる

全部黒になる

白か黒になる

JUST IS BLACK

青春はオレンジの思い出

間違え方思い出す

思い出したくないこと忘れだす

正常まで道連れにするなよ

馬鹿みたいになるなよ

覚えてること全部吐き出せよ

全部黒になる

白か黒になる

何て薄っぺらい音なんだろう

プチリって切っちゃえば

JUST IS BLACK

青春はハスの花の思い出



**J U S T I S B L A C K (後書き)**

ジ  
ャ  
ス  
テ  
ィ  
S  
Y

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3569s/>

---

Life+is+beautiful

2011年10月8日18時11分発行